

平成20年度 地方の元気再生事業 事業実施調書

(1) 取組名	環境に配慮した持続可能な観光の推進およびコミュニティ・ビジネス構築事業		
(2) 実施団体名	NPO法人 島の風	(3) 対象地域	沖縄県島尻郡伊是名村
(4) 代表団体名	NPO法人 島の風	(5) 推薦団体名	伊是名村

(6) 実施した取組の内容	取組①	再生古民家の運用実験を通じたコミュニティ・ビジネスの確立		
	実施主体	NPO法人 島の風		
	実施内容、 実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果	
		○メンテ・リネンサービス運用実験と運用チームの結成 ・実施期間：平成20年9月～21年2月 ○提供プログラムの提供実験と人材の育成 ・実施期間：平成20年9月～21年2月 ○提供プログラムアイテムの充実 ・実施期間：平成20年9月～10月 ○雑誌等による情報発信 ・実施期間：平成20年9月～10月 ○アンケート調査 ・実施期間：平成20年10月～21年2月 ○先進地視察を通じた古民家運用の調査研究 ・実施期間：平成20年11月	○メンテサービス6名(10回)、リネンサービス4名(40回)の体制で計50回の運用実験を実施 ・実施期間：平成20年9月～21年2月 ・取組の結果：サービスの精度は充分上がったが、ワーキングシェアの部分で人員がやや多すぎたかと思う。チーム編成時に構成人員を考慮する。 ○古民家のパンフレット、歴史、風景パンフレットの作成 ・実施期間：平成20年10月～21年2月 ・取組の結果：古民家のパンフレットは好評だったが、歴史、風景パンフレットは制作が送れ年明けに持ち越した。その間既存のパンフレットを使用。 ○雑誌5誌に記事掲載 ・実施期間：平成20年9月～21年2月 ・取組の結果：雑誌読者からの問い合わせが多数寄せられる。 ○アンケート調査実施 ・実施対象者：古民家宿泊客 ・実施方法：任意 ・実施期間：平成20年9月～21年2月 ・取組の結果：14名から回答：メンテ、リネンサービスのクオリティは「良い」6名「普通」9名「やや悪い、悪い」0名。他プログラムは概ね「良」。 ○空き屋対策等で先進的な取組を実施している岡山県笠岡諸島を調査 ・実施期間：平成20年12月6日～8日 ・取組の結果：移住者に対する古民家の利用の可能性の調査。地域資源探しの徹底の必要性を調査。 (その他) ○あんまーキッチン(5回)、歴史案内(4回)、風景案内(2回)、計11回実施 ・実施期間：平成20年9月～12月 ・取組の結果：あんまーキッチンは今後もプログラムの実施が可能。他プログラムは、提供者の共通認識の為のレクチャーが必要。(当事業は、受益者負担による自主事業)	
		取組②	エコの島推進事業	
		実施主体	NPO法人 島の風	
実施内容、 実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果		
	○全島マイバッグ普及の推進 ・実施期間：平成20年9月～2月 ○児童生徒によるマイバッグデザインコンテストの開催 ・実施期間：平成20年9月～10月 ○リユース実験ショップ「まーる」の運用実験 ・実施期間：平成20年9月～2月 ○先進地視察を通じたリデュース、リサイクルの調査研究 ・実施期間：平成20年1月 ○啓蒙ポスター等の制作 ・実施期間：平成20年10月	○レジ袋削減調査のため、島内全所帯にトートバッグを配布(800枚)、島内商店に貸し出し用配布(200枚) ・実施期間：平成20年10月 ・取組の結果：住民の6割程度がマイバッグを持参(商店の聞き取り調査)、若年層の使用頻度が低い。 ○マイバッグデザインコンテストの開催(全生徒分210枚制作) ・実施期間：平成21年2月 ・取組の結果：学校事業が重なり、学年単位で実施したため、取組が遅れたが全生徒のデザインを集めることができた。 ○平成20年10月10日リユース実験ショップ「まーる」としてJAスーパー内にオープン ・実施期間：平成20年10月～21年2月 ・取組の結果：ブース数9ブースで10月～翌年1月までの出展者30名。 ○「もったいない宣言」をした福岡県大木町を視察、取組を調査。 ・実施期間：平成21年2月初旬 ・取組の結果：町全体での3Rの取組を調査研究(2月実施予定) ○マイバッグ、リユースショップポスター(80枚)島内掲示。チラシ(1,000枚)島内配布 ・実施期間：平成20年10月 ・取組の結果：トートバッグの配布と共にマイバッグの持参が急激に増える。リユースショップの積極利用。継続発展の可能性大。		
	取組③	住民による宝の島再発見事業		
	実施主体	NPO法人 島の風		
実施内容、 実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果		
	○住民の自主企画運営による第2回「しまあかり」の開催 ・実施期間：平成20年11月 ○住民のエンロールと主体性醸成のための会議の開催 ・実施期間：平成20年9月～11月 ○情報発信のためのポスター、チラシの制作 ・実施期間：平成20年9月～10月	○第2回「しまあかり」の実施 ・実施期間：平成20年11月29日～30日 ・取組の結果：当日の観客数延べ372名(内島外参加者82名)、事業実施参加住民197名、島外ボランティア25名 ○しまあかり実行委員会の結成と延べ5回の会議(他に分科会開催) ・取組の結果：14名で実行委員会を結成。100%民間主導で運営した。 ○ポスター<200枚>チラシ(1,000枚)を島内、県内に掲示、配布 ・実施期間：平成20年10月下旬 ・取組の結果：島外からの観客は82名であったが、本島内大学生18名、首都圏から7名の運営ボランティアの参加があった。		

(7)実施体制	平成20年度の取組実施における体制・役割分担		取組の実施を踏まえた反省点	
	<p>○NPO法人島の風(主担当:取組①②③)</p> <p>・実施主体として事業実施し、下記団体等との協力的体制を組む</p> <p>○民間8名による協力チーム(主担当:取組①)</p> <p>・メンテ、リネン、プログラム提供実験を行う</p> <p>○伊是名村環境プロジェクト(主担当:取組②)</p> <p>・村内におけるトートバッグ配布等の広報および配布業務</p> <p>○JAおきなわ伊是名支店(主担当:取組②)</p> <p>・リユース実験ショップの委託運営</p> <p>○「しまあかり」実行委員会(主担当:取組③)</p> <p>・NPO法人島の風と連携し、事業企画実施</p>		<p>○取組①:地域住民8名により、メンテリネンサービス実験、プログラム提供実験を行う。10名のスケジュール等のコントロールは島の風事務局が行ったが、今後、住民の登録による提供チームを確定し、チーム内でワーキングシェアも含め、コントロールしていくのが理想であろう。</p> <p>○取組②:村行政内組織「伊是名村環境プロジェクト」の協力で、村内への広報活動、トートバッグ全所帯配布など徹底することができた。リユース実験ショップの運営に関しては、JA伊是名支店の協力でスーパー内に設置することとなり、物品受け渡し等もスーパーカウンターを利用できた。</p> <p>○取組③:NPO島の風のメンバーを含めた民間14名で実行委員会を結成し、100%民間主導型の実施体制がとれた。(特記事項)沖縄本島内の各大学の有志で結成された18名のボランティアチームの参加は、当初計画にはなかったものの、事業をとおし新たな交流等の広がりを感ぜさせた。</p>	
(8)取組により得られた成果	○成果1→ 再生古民家の稼働率アップと提供プログラムの充実と利用アップ			
	H19		H20(当初予定していた目標)	
	稼働率29%(運用7月~12月) サービス実験 29回(運用7月~3月)		稼働率35%(運用通年) サービス実験 50回(運用9~2月)	
	H20(実際に得られた成果)			
	<p>○古民家の稼働率はハイシーズンの7、8月を算定に加え、7月から12月までで31%(昨年度同期間29%)であった。昨年は1棟のみ運用で今年は2棟運営していることを考えると、利用回数は倍増した計算になる。</p> <p>○サービス実験の実施回数は9~2月を算定に加え50回(昨年度同期間29回)行ったが施設周辺、室内とも充分なクオリティを維持することができた。</p> <p>○古民家利用者に対するアンケートは、9月~12月までに14通回答(任意にしたためほとんどが利用グループ単位の回答になった)。メンテ、リネン、プログラム提供とも「良」「普通」で100%の回答。</p> <p>○提供プログラム(自主事業)は、7月~12月まで12回行ったが、希望者の要求に充分こたえることができたものの、歴史案内には歴史の共通認識等の課題が残った。</p>			
	マイバッグの全島普及			
	H19		H20(当初予定していた目標)	
	島内219所帯が所有		全800所帯が所有 児童生徒等が補助バッグとして使用	
	H20(実際に得られた成果)			
	<p>○島内全所帯がマイバッグを所有</p> <p>○島内購買の中心となる3つのスーパー、売店からの調査結果によると、6割程度がマイバッグを持参している。具体的な数字がでたJAスーパーにおいては、レジ袋の追加注文が4割程度減っている。</p> <p>○成果目標には明記していなかったが、リユース実験ショップも小さいながら順調に稼働し、10月から8ブースで30組の出展があった。当初は、出品するよう、地域住民に対し勧めていたが、自主的出品者が増加してきた。</p>			
○成果3→ 島民の自主的ボランティア参加の促進および島外からの参加者の拡大				
H19		H20(当初予定していた目標)		
島民のボランティア参加 259名(島民の15%) 島外からの参加 120名		島民のボランティア参加 300名 島外からの参加 300名		
H20(実際に得られた成果)				
<p>○イベント来場者372名(内、島外からの来場者107名)、島民ボランティア194名</p> <p>○イベント来場者、ボランティア参加者共に若干減少したが、これは行灯制作当日および実施当日に他事業が重なったためと思われる。</p> <p>○地元2紙の新聞にも翌朝大きく報道(1紙については1面で報道)され、大きなPR効果があったと思われる。</p> <p>○新たに、沖縄本島内大学生有志の18名のチームが運営参加協力してくれたことは、今後の事業運営に大きな可能性を示唆してくれた。</p> <p>○遠く首都圏から7名のボランティア参加者を得たことは事業推進に携わったものに、大きな誇りとなった。</p>				

<p>(9)今年度の取組成果や活動を踏まえた反省点、改善点</p>	<p>○取組①:8名の地域住民による古民家運営のビジネス化実験は、若干の修正箇所はあるものの充分その成果は確認できた。ただ、古民家2棟の運営では業務規模が小さく、労働のシェアという面からも、更に3棟、4棟目という古民家再生および運用が急がれる。プログラム提供については、料理の提供等は評価が高く、充分要求に耐えられるが、そのクオリティを維持したまま提供できる人材の確保が課題である。島内案内等のプログラムは歴史等の共通認識を明確にできるカリキュラムが必要であろう。</p> <p>○取組②:エコバッグの推進は、取組の初年度にしては充分その成果があがった。島内中心となる3店舗をターゲットにトートバッグの貸出等もおこなったが、残りの小規模店舗(5店舗)の対応、島内で買い物をする観光客への対応、来島し長期滞在する事業関係者への対応など課題は多いが、啓蒙活動等を通じた息の長い取組が必要であろう。リユース実験ショップ運営は、その可能性を充分感じている。更に運用実験を進め、本年度実現できなかった大物(子供用自転車やチャイルドシートなど)を扱える取組としてブースを拡大したい。</p> <p>○取組③:同時期に他事業が重なったため、来場者、ボランティア等の数は昨年度を若干下回ったが、島内外の評価は高かった。島外からの参加者が目標を大きく下回ったのは、2日間に渡り開催することで倍増するのではないかという判断ミスと出演ゲストの知名度が影響したかと思う。コンサートという方向からではなく、環境ライトアップ事業としての情報発信を強化しなければならない。大学生のボランティア参加は、予想外の成果であり今後の取組につなげたい。また、島外からの来場者の拡大は離島というハンディはあるが、情報発信の繰り返しが必要だろう。</p> <p>○その他(特記):本年度、県内外から地域活性化の事例視察として、100名近くの視察者があった。また、沖縄県からも正式に離島および過疎地対策の事例調査の訪問を受けた。私たちはこれらの取組を更に進めていくことで離島活性化のモデルとなりえることを確信している。</p>												
<p>(10)平成21年度以降の活動の見込み</p>	<p>当初提案に予定していた平成21年度以降の展開 今年度の取組状況を踏まえた平成21年度以降の活動の見込みと活用を希望する支援制度</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:30%; vertical-align: top;"> <p>1. 古民家運用体制の確立(21年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古民家運用チームの結成 ・古民家再生事業の拡大 </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>1. 古民家運用体制の確立(21年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施主体:NPO法人島の風 ・リネン・メンテに関する協力人員を登録し、運用チームを設立。業務シェアを行う。 【活用を希望する制度:無し(21年4月より自主財源により実施)】 ・提供プログラムの充実および拡大を図る。(琉球大学ワーキングチーム、地元学ネットワーク(招聘)等との連携によるプログラムの確立) ・プログラム提供者の共通認識を図るマニュアルの作成。 ・先進地視察を通じ事業の更なるクオリティアップを図る。 【活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(250万円)】 </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>1-2.古民家レストラン設立の具体的推進(21年度～)</p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>1-2. 古民家レストラン設立の具体的推進(21年度～)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPO法人島の風と民間組織等の連携による本年度基礎調査が終了し、対象古民家の修復を含む設立準備をスタートする。 【活用を希望する制度:古民家の修復に関して、農水省「都市農村交流事業」等の助成申請を予定】 </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>2. エコの島づくりの推進(21年度～)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リサイクルショップの設置、運用 ・マイバッグの全島展開 ・リデュースの啓蒙運動 </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>2. エコの島づくりの推進(21年度～)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施主体:NPO法人島の風と伊是名村環境プロジェクトとの連携によるリユース実験ショップの拡大再設置と運用及び3R運動並びにマイバッグ推進の啓蒙運動を実施。 ・【活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(100万円)】 </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>3. 住民自律意識の形成(21年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「しまあかり」の環境観光のシンボル事業としての定着 ・住民のエンロール </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>3. 住民自律意識の形成(21年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施主体:NPO法人島の風と「しまあかり」実行委員会の連携による住民ボランティア参加の拡大と島外ボランティアとの交流促進を図る。併せて島外来場者拡大のための情報発信の強化する。 【活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(150万円)】 </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>4. 「環境観光」のマーケティング(21年度～)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各事業連携による「環境観光」の推進 ・運動としての「環境観光」の情報発信 </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>4. 「環境観光」のマーケティング(21年度～)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施主体:NPO法人島の風 ・全国へ向けての「環境観光」の情報発信を展開する。具体的には、地域情報展示会等への出展《アイランダー(国交省等主催)、エコプロダクツ((社)産業環境管理協会等主催)》を想定。 ・雑誌(「うるま」等)を活用したPR掲載による情報発信。 【活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(150万円)】 </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>当初提案なし</p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>5. 沖縄古民家再生技術者養成カレッジの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施主体:NPO法人島の風 ・古民家のリホーム過程を10回程度のカリキュラムに分け、経験者の指導の下で現場で職能訓練をしていく。 ・参加者が技術を習得することで就労のチャンスが生まれ、古民家再生事業実施に係る技術者を島内で養成することで地域内経済循環を図る。 ・技術者養成カレッジについては、19年度に実施し、成果をあげる事ができた。20年度については開催できなかったものの、21年度には再度、古民家再生に資する技術者の養成事業を開催したい。 【活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(500万円)】 </td> </tr> </table>	<p>1. 古民家運用体制の確立(21年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古民家運用チームの結成 ・古民家再生事業の拡大 	<p>1. 古民家運用体制の確立(21年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施主体:NPO法人島の風 ・リネン・メンテに関する協力人員を登録し、運用チームを設立。業務シェアを行う。 【活用を希望する制度:無し(21年4月より自主財源により実施)】 ・提供プログラムの充実および拡大を図る。(琉球大学ワーキングチーム、地元学ネットワーク(招聘)等との連携によるプログラムの確立) ・プログラム提供者の共通認識を図るマニュアルの作成。 ・先進地視察を通じ事業の更なるクオリティアップを図る。 【活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(250万円)】 	<p>1-2.古民家レストラン設立の具体的推進(21年度～)</p>	<p>1-2. 古民家レストラン設立の具体的推進(21年度～)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPO法人島の風と民間組織等の連携による本年度基礎調査が終了し、対象古民家の修復を含む設立準備をスタートする。 【活用を希望する制度:古民家の修復に関して、農水省「都市農村交流事業」等の助成申請を予定】 	<p>2. エコの島づくりの推進(21年度～)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リサイクルショップの設置、運用 ・マイバッグの全島展開 ・リデュースの啓蒙運動 	<p>2. エコの島づくりの推進(21年度～)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施主体:NPO法人島の風と伊是名村環境プロジェクトとの連携によるリユース実験ショップの拡大再設置と運用及び3R運動並びにマイバッグ推進の啓蒙運動を実施。 ・【活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(100万円)】 	<p>3. 住民自律意識の形成(21年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「しまあかり」の環境観光のシンボル事業としての定着 ・住民のエンロール 	<p>3. 住民自律意識の形成(21年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施主体:NPO法人島の風と「しまあかり」実行委員会の連携による住民ボランティア参加の拡大と島外ボランティアとの交流促進を図る。併せて島外来場者拡大のための情報発信の強化する。 【活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(150万円)】 	<p>4. 「環境観光」のマーケティング(21年度～)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各事業連携による「環境観光」の推進 ・運動としての「環境観光」の情報発信 	<p>4. 「環境観光」のマーケティング(21年度～)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施主体:NPO法人島の風 ・全国へ向けての「環境観光」の情報発信を展開する。具体的には、地域情報展示会等への出展《アイランダー(国交省等主催)、エコプロダクツ((社)産業環境管理協会等主催)》を想定。 ・雑誌(「うるま」等)を活用したPR掲載による情報発信。 【活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(150万円)】 	<p>当初提案なし</p>	<p>5. 沖縄古民家再生技術者養成カレッジの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施主体:NPO法人島の風 ・古民家のリホーム過程を10回程度のカリキュラムに分け、経験者の指導の下で現場で職能訓練をしていく。 ・参加者が技術を習得することで就労のチャンスが生まれ、古民家再生事業実施に係る技術者を島内で養成することで地域内経済循環を図る。 ・技術者養成カレッジについては、19年度に実施し、成果をあげる事ができた。20年度については開催できなかったものの、21年度には再度、古民家再生に資する技術者の養成事業を開催したい。 【活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(500万円)】
<p>1. 古民家運用体制の確立(21年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古民家運用チームの結成 ・古民家再生事業の拡大 	<p>1. 古民家運用体制の確立(21年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施主体:NPO法人島の風 ・リネン・メンテに関する協力人員を登録し、運用チームを設立。業務シェアを行う。 【活用を希望する制度:無し(21年4月より自主財源により実施)】 ・提供プログラムの充実および拡大を図る。(琉球大学ワーキングチーム、地元学ネットワーク(招聘)等との連携によるプログラムの確立) ・プログラム提供者の共通認識を図るマニュアルの作成。 ・先進地視察を通じ事業の更なるクオリティアップを図る。 【活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(250万円)】 												
<p>1-2.古民家レストラン設立の具体的推進(21年度～)</p>	<p>1-2. 古民家レストラン設立の具体的推進(21年度～)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPO法人島の風と民間組織等の連携による本年度基礎調査が終了し、対象古民家の修復を含む設立準備をスタートする。 【活用を希望する制度:古民家の修復に関して、農水省「都市農村交流事業」等の助成申請を予定】 												
<p>2. エコの島づくりの推進(21年度～)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リサイクルショップの設置、運用 ・マイバッグの全島展開 ・リデュースの啓蒙運動 	<p>2. エコの島づくりの推進(21年度～)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施主体:NPO法人島の風と伊是名村環境プロジェクトとの連携によるリユース実験ショップの拡大再設置と運用及び3R運動並びにマイバッグ推進の啓蒙運動を実施。 ・【活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(100万円)】 												
<p>3. 住民自律意識の形成(21年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「しまあかり」の環境観光のシンボル事業としての定着 ・住民のエンロール 	<p>3. 住民自律意識の形成(21年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施主体:NPO法人島の風と「しまあかり」実行委員会の連携による住民ボランティア参加の拡大と島外ボランティアとの交流促進を図る。併せて島外来場者拡大のための情報発信の強化する。 【活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(150万円)】 												
<p>4. 「環境観光」のマーケティング(21年度～)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各事業連携による「環境観光」の推進 ・運動としての「環境観光」の情報発信 	<p>4. 「環境観光」のマーケティング(21年度～)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施主体:NPO法人島の風 ・全国へ向けての「環境観光」の情報発信を展開する。具体的には、地域情報展示会等への出展《アイランダー(国交省等主催)、エコプロダクツ((社)産業環境管理協会等主催)》を想定。 ・雑誌(「うるま」等)を活用したPR掲載による情報発信。 【活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(150万円)】 												
<p>当初提案なし</p>	<p>5. 沖縄古民家再生技術者養成カレッジの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施主体:NPO法人島の風 ・古民家のリホーム過程を10回程度のカリキュラムに分け、経験者の指導の下で現場で職能訓練をしていく。 ・参加者が技術を習得することで就労のチャンスが生まれ、古民家再生事業実施に係る技術者を島内で養成することで地域内経済循環を図る。 ・技術者養成カレッジについては、19年度に実施し、成果をあげる事ができた。20年度については開催できなかったものの、21年度には再度、古民家再生に資する技術者の養成事業を開催したい。 【活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(500万円)】 												

◆主な実施取組の内容◆

再生古民家の運用実験を通じたコミュニティ・ビジネスの確立

- ・メンテ、リネンサービスの運用実験
- ・体験プログラムの提供実験
- ・雑誌等による情報発信

リネン、メンテ
サービス実験



プログラム提供実験(風景案内)



雑誌掲載記事



エコの島推進事業

- ・全島マイバッグの推進
- ・リユース実験ショップ「まーる」の運用実験

リユース実験ショップ「まーる」



マイバッグデザインと
買い物風景



啓蒙ポスター



住民による島の宝再発見事業

- ・第2回「しまあかり」の開催
- ・住民のエンロールと主体性醸成

「しまあかり」実施風景



行灯制作風景



住民による
一斉清掃



◆取組実施による成果・今後の展開◆

取組の成果:再生古民家の運用実験を柱に3つの取組を実施し、それらを有機的に組み合わせ、住民をエンロールした「環境観光」という新しい観光の取組を推進した。美しい島であり続けることの運動そのものが観光の資源として有効に機能することを伝えることができたと思う。また、対外的にも環境ビジネスウィメン・環境省・総務省等主催の「eco japan cup 2008」においてこの取組が奨励賞を受賞したほか、沖縄総合事務局の「沖縄振興功績者表彰」を受賞するなど、県内外から高い評価を得ている。

今後の展開:今後、新たな事業も加えながら、へき地であること小規模であることを最大限の武器とした「環境観光」というコミュニティ・ツーリズム(観光版コミュニティ・ビジネス)を展開し、「島のこしが島おこし」の活動を全国に情報発信していきたい。